

1. ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成 30 年度に研修委員会のもとで新しく発足され、以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

石原 聖子 (中部土質試験協同組合) / 岩崎 理代 ((株)ダイヤコンサルタント) / 下山 友実 (玉野総合コンサルタント(株)) / 二宮 真帆 ((株)朝日土質設計コンサルタント) / 平江 喜子 (応用地質(株)) / 三好千春 (東邦地水(株)) / 山田 千尋 (青葉工業(株))

2. 活動の概要

平成 30 年度のワーキングの活動は7月、10月、11月、12月、1月 (女性技術者座談会)、2月の計6回行った。活動の内容としては、①全地連アンケートの解析、②女性技術者座談会の開催に向けて、③内閣府の取り組み (リコチャレ) への参加の3点の議題を中心に議論した。

① 全地連のアンケートの解析

業界として男女ともに勤続年数の少ない新卒や中途の離職者が多いが、女性特有の問題として結婚や配偶者の転勤などを理由に離職する事例が多い。残業や休日出勤が多いため、家庭との両立が難しいとの回答が目立った。

また、採用側の意見として、女性技術者を採用した実績がある会社の方が積極的に女性技術者を採用しやすい傾向にあり、前例や実績によって女性の採用が後押しされることがわかる。

就職者側の意見としては男女問わず地質調査業に対するイメージが非常に悪い、または認知度が低く入職しづらい雰囲気であり、近年の学生の傾向としては、より労働条件の良い (福利厚生、休日の充実、転勤のない) とされる公務員へのエントリーに流れてしまうようだ。

アンケートの内容から業界への就労、離職の問題は男女問わず (特に若手で) あり、古くからの体質改善=魅力ある業界づくり、若手人材確保の必要があると考える。

② 女性技術者座談会の開催に向けて

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した。詳細は次項に示す。

③ 内閣府の取り組み (リコチャレ) への参加

理工チャレンジ (リコチャレ) とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大

学や企業などを『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

女子学生の進路選択に地質調査業が含まれるよう、ワーキングの活動などを発信していくため、リコチャレ応援団体に中部地質調査業協会として登録した。

3. 女性技術者座談会の開催

3-1 女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは2019年1月16日に「女性が働きやすい環境づくり」をテーマに女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレス(中区)で開催した。主にワークライフバランスについて、業界で働く女性ならではの悩みなどを抽出・共有し、それらの対処策について活発な討論を行うことができた。

参加者はワーキンググループメンバー7名を中心に経験年数8か月~26年という幅広い計11名の方に参加いただき、ワールドカフェ方式で行った。「ワールドカフェ」とは、3~4名のグループ間でお茶、お菓子を楽しみながら情報を共有し、10分~20分程度でメンバー交代を繰り返しながら、徐々に全体で情報を共有する会議方式である。本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、少人数の場でテーマに集中した対話を行え、話しやすさが生まれるという利点がある。



写真-1 開会あいさつ



写真-2 ワールドカフェの様子

3-2 座談会での議論

「女性が働きやすい環境づくり」と題し、女性技術者として働く上での問題点、その解決策やより働きやすくするための制度等についてどのようなものがあるかとよいかを活発に議論した。議論内容を以下に示す。

- ・身近に女性技術者がいないため、仕事やワークライフバランスに関する相談をする相手がいない。
 - ・現場でのトイレや力仕事、夜勤などへの配慮はきちんとしていただいているが、過剰な配慮に辟易とすることもある。
 - ・産休、育休、時短、介護休等の制度について取得することに後ろめたさを感じる。これらの制度の必要性について周りの理解があるか、または取得するにあたって適正な人員配置をしてもらえるかが不安。
- 男性の育休取得を推進するべき。育休取得経験のある上司がいれば相談しやすく、前例があればそれに続き、若手の育休取得にもつながるのでは。

また、適正な人員配置について、一部の会社で設けられている結婚、妊娠を機に一度離職した女性技術者の再雇用やパートタイムでの復帰が可能な制度を広めるとよいのでは。

やはり共通の悩みや不安を抱えている方が多く、この業界ならではの問題もあり、それらについてざくばらんな議論をすることができた。

非常にお忙しいところ今回の企画に参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



写真・3 参加者の集合写真

3-3 座談会の参加後アンケート

座談会の参加後に行ったアンケートでは、参加者全員に回答いただいた。全員の参加者から参加してよかった、今後も参加したいとの意見をいただいたものの、座談会の開催時期について妥当でなかったとの意見が目立ったため、来年度は要望の多かった6月から9月の開催を予定することとする。

また、ワールドカフェ方式について「気軽に話せた」

「楽しい時間が過ごせた」と大変好評いただいた。

今後、女性活躍ワーキンググループにどのような活動を期待しますかとの問いには、以下の回答があった。

- ・何でも話せる交流の場を今後も提供してほしい。
- ・いろいろな制度を使いやすいように各会社への働きかけを行ってほしい。
- ・このような話し合いの中で必要だと思う制度について、制度を作るための働きかけを会社にできるような仕組みがあったらいいと思い、このような会に会社の上の方も参加していただきたい。
- ・座談会のほかにも、活動するようなイベントがあると楽しそう。

また、こんな議題で座談会を行ったらいいなというテーマについて、

- ・仕事と家庭の両立、働き方紹介
- ・会社の意識を変えるにはどのような働きかけが必要か

など、経験豊富な女性技術者のロールモデル紹介や現状を打開するための解決策など具体的な議論を期待する声が挙がった。

自由記述欄では、

- ・とても楽しかった。普段困っていることなど気軽に話せた。
- ・今後も頻繁に開催してほしい。
- ・思っていた以上に話しやすく、楽しい時間が過ごせた。

等の意見をいただいた。

4. 今後の活動について

女性活躍推進ワーキンググループでは、来年度の活動として、女性技術者座談会の定期開催（年1回）と業界認知度の向上のため、リコチャレHPの更新、女性技術者のロールモデル作成や地元大学の就職支援室等でのイベントやセミナーの開催を目指していく。また、ワーキングの活動で抽出された問題点の提議や協会への要望等、地質調査業が魅力ある業界となるよう、随時働きかけを行っていきたい。

5. おわりに

今年度の本ワーキングの活動は、初年度ということもあり、協会に対してどの程度問題提議ができるのかまだ手探りの部分もあるが、来年度以降も積極的に活動していき、女性技術者同士の交流や意見交換を図っていきたい。